

# 令和元年度病虫害発生予察注意報第3号

令和元年5月31日  
愛知 県

作物名：カンキツ、ブドウ  
病虫害名：チャノキイロアザミウマ

- 1 発生地域 県内全域
- 2 予想発生程度 多い
- 3 注意報発表の根拠

- (1) 5月下旬に行った、ほ場周囲における本種の生息数調査において、ウンシュウミカン21ほ場のイヌマキ（防風垣）10新梢の払い落とし虫数は24.7頭（平成6.4頭、前年12.7頭）、発生ほ場率は85.7%（平成68.1%、前年81.8%）、ブドウ12ほ場のイヌマキ（防風垣）10新梢の払い落とし虫数は5.6頭（平成1.8頭、前年0.1頭）、発生ほ場率は58.3%（平成44.4%、前年9.1%）で、ウンシュウミカン、ブドウとも過去10年と比較して払い落とし虫数は最も多く、発生ほ場率はウンシュウミカンで3番目、ブドウで2番目に高かった。
- (2) 5月30日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば、6月の気温は高く、平年に比べ曇りや雨の日が少ないと予想されており、本種の増殖に適した気象条件となることが見込まれる。

#### 4 防除上注意すべき事項

- (1) ウンシュウミカンでは、本種が6月から7月に加害すると、果梗部に灰色～灰褐色のリング状の傷が生じる。ブドウでは、新梢で多発生した本種幼虫が果穂に移動して食害し、果軸が茶褐色に変色、果粒の着色や果粒肥大が悪くなる。いずれも防除適期である成虫の発生ピーク予測日（表1）に防除を実施する。今後、日平均気温が平年より1℃高く推移すると、ピーク予測日が1日程度早くなるので、今後の気温の推移を踏まえて防除日を設定する。
- (2) 防除にあたっては、表2（カンキツ）及び表3（ブドウ）を参考にIRACコードが同じ薬剤を連続して使用することは避ける。ブドウでは、農薬によっては使用時期により果粉の溶脱を生じる恐れがあるので、十分に注意する。
- (3) 本種は寄主範囲が広く、イヌマキやサンゴジュ、チャ、ツバキにも好んで寄生するので、これらを防風垣にしているほ場や近くにこれらの植物が存在するほ場では被害を受けやすい。このため、周辺の寄主植物の発生状況にも注意する。

表1 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日（月/日）

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	伊良湖	新城	稲武
第1世代	5/23	5/22	5/18	5/19	5/22	5/24	5/21	5/21	5/21	5/24	6/12
第2世代	6/17	6/19	6/13	6/14	6/18	6/19	6/16	6/17	6/17	6/20	7/11
（前年）	6/13	6/12	6/7	6/9	6/12	6/13	6/11	6/11	6/12	6/14	6/5*
前年差	4日遅	7日遅	5日遅	4日遅	6日遅	6日遅	5日遅	6日遅	5日遅	6日遅	7日遅*
第3世代	7/9	7/11	7/4	7/5	7/10	7/11	7/8	7/8	7/9	7/11	8/3

各地のアメダス平均気温から有効積算温度を利用して予測。\*稲武については、第1世代の前年ピーク日と前年差。

5月30日までは実測値を、それ以降は平年値（豊橋、大府は前年値）を用いて計算。前年の第2世代は、前年気温の実測値を用いて計算。

表2 かんきつのチャノキイロアザミウマに対する主な防除薬剤

農薬名	使用時期	希釈倍数	使用回数	IRAC コード
アドマイヤー顆粒水和剤	収穫14日前まで	5000～10000倍	3回以内	4A
モスピラン顆粒水溶剤	収穫14日前まで	2000～4000倍	3回以内	4A
ベストガード水溶剤	収穫7日前まで	1000～2000倍	3回以内	4A
スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	収穫前日まで	1000～2000倍	3回以内	4A
ダントツ水溶剤	収穫前日まで	2000～4000倍	3回以内	4A
コルト顆粒水和剤	収穫前日まで	3000倍	3回以内	9B
コテツフロアブル	収穫前日まで	2000～6000倍	2回以内	13*
ディアナWDG	収穫前日まで	5000～10000倍	2回以内	5

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、[https://www.jcpa.or.jp/lab0/pdf/2018/mechanism\\_irac02.pdf](https://www.jcpa.or.jp/lab0/pdf/2018/mechanism_irac02.pdf)を参照する。

薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

表3 ぶどうのチャノキイロアザミウマに対する主な防除薬剤

農薬名	使用時期	希釈倍数	使用回数	IRAC コード
モスピラン顆粒水溶剤	収穫14日前まで	2000～4000倍	3回以内	4A
スプラサイド水和剤	収穫14日前まで	1500倍	2回以内	1B
スカウトフロアブル	収穫7日前まで	2000～3000倍	3回以内	3A
スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	収穫前日まで	1000～2000倍	3回以内	4A
ダントツ水溶剤	収穫前日まで	2000～4000倍	3回以内	4A
コルト顆粒水和剤	収穫前日まで	3000倍	3回以内	9B
ディアナWDG	収穫前日まで	5000～10000倍	2回以内	5

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、[https://www.jcpa.or.jp/lab0/pdf/2018/mechanism\\_irac02.pdf](https://www.jcpa.or.jp/lab0/pdf/2018/mechanism_irac02.pdf)を参照する。

薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

## 5 連絡先

愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室  
電話 0561-62-0085 内線471